

2015 年度（H27 年度）事業報告

慈愛園乳児ホーム

平成 27 年度 慈愛園乳児ホーム 事業報告

【今年度の慈愛園乳児ホームの動き】

平成 27 年度は、園長交代、小規模保育スタートと大きな変化があった年であった。まずは園長交代に伴う職員の配置変更から混乱が生じた。過去 17 年間は前園長の強力な指導力を背景に事業を進めてきた。しかし 27 年度は園長の指示を職員に伝える役割としての基幹的職員が不在となり、トップダウンの体制が維持できなくなった。27 年度当初は二人の主任を置き代替としたが、効果は薄く職員の協働意識に歪みが見られた。この為、以前から手狭であった事務所を乳児ホームに移動し、園長自ら職員の指導を行うことで職員の意識統一を図ることが可能となった。この事からリーダー育成が急務の課題となり、2 名の職員を子供ホームスーパーバイザーの協力のもとスーパービジョンの習得を行っている。この経験から研修体系の見直し、人材育成を柱とした組織作りを進めていきたい。

27 年度の大きな課題であった小規模保育運営については、職員の孤立化や児童配置問題が起きた。孤立化については本体施設と合同保育を重ねる事と職員会議にて話し合いを行うことで現状の自覚を促し大事に至らず処理が出来た。しかしながら児童配置問題については今までの配置では解決に至らず、28 年度は 3 人の職員を増員し勤務態勢を抜本的に変えることで対応していく予定である。

また、以前から行っているプロジェクトや自己評価、スーパービジョン（職員目標管理）は時間の保障を勤務内で行うことで安定し、定着してきている。人材育成としてもかなりの効果を期待出来る為、今後も続けていきたい。また、継続プロジェクトであった「ライフストーリーブック（子どもの記憶アルバム）」が完成した。既に三人の児童分を作成し配布することが出来た。

【平成 27 年度入退所状況、子育て支援事業の概要について】

（1）平成 26 年度在籍状況（平成 27 年 2 月 1 日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日	12	12	12	14	12	11	11	11	11	13	13	13	145
退所	1	0	0	2	1	0	0	1	1	0	2	2	11
入所	1	0	0	2	0	0	0	2	2	0	2	2	11
末日	12	12	12	12	11	11	12	13	13	13	31	13	145

（2）一時保護

市-Y.S (6/5～6/30) Y.S (6/19～6/30) K.H (9/10～10/6) M.M (9/28～11/16)
A.A (10/21～11/12) U.R (11/8～12/3) U.R (11/8～12/3) K.K (12/5～12/18)
LA (3/23～継続中) LK (3/23～継続中)
県-I.K (6/19～7/10) N.U (11/13～1/4) E.R (2/19～2/24)

(3) 子育て短期利用事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ショート	5	5	3	1	0	2	3	2	1	0	1	0	12
利用泊数	18	26	11	8	0	3	11	14	1	1	3	0	95
トワイライト	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3

(4) 病虚弱児加算対象児童

・K.S ・S.K ・H.N ・N.K ・Y.S ・K.J

(5) 被虐待児受入加算対象児童

・K.S ・F.A ・F.T A.A M.M U.R U.R

(6) 病児保育エーネホーム利用児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H24年度	67	67	60	94	80	78	74	90	67	65	85	89	916人
H25年度	80	89	86	76	43	39	67	71	85	98	112	102	948人
H26年度	94	81	99	60	53	64	71	37	80	130	80	72	921人
H27年度	65	47	75	77	59	53	43	48	64	55	75	67	728人

(7) もうすぐパパママ教室

4月5日	6月7日	8月2日	10月4日	12月6日	2月7日
6組	9組	0組	8組	0組	2組

1 2 / 6 は本園での感染症流行のため中止となった。

【平成 27 年度における苦情解決等の状況について】

(1) 平成 27 年度苦情受付件数は 1 件

利用者から八代児童相談所に対してのクレーム。児童相談所長に連絡し直接、所長自身が本園にて利用者に面接することで解決。

(2) 事故として扱ったケース

誤薬－1 件 配薬ミス－5 件 肘内障－2 件 転倒－1 件

ももホームスタート時に配薬方法がはっきりしていなかったために配薬ミスが多かった、現在では配薬方法も改善しミスは起こっていない。

(3) インシデントトラブル（ひやりはっと）

重要書類紛失（発見済）－1 件 火の扱い－2 件（台所火の消し忘れ、電灯からの引火）

(4) 職務怠慢・ハラスメント

ベテラン職員によるパワーハラスメントが1件。本件に関しては法人理事長と協議し、当事者同士の話し合いを行った。被害者が納得できる状態に落ち着いたとは言い難いが、ある程度の終結を向かえることが出来た。職務怠慢は2件。業務上の責任を果たさず仕事を放置していたことにより他職員、入所児に多大な迷惑かかる結果となった。3件ともベテラン職員によるものであった。

(考察)

3件ともベテラン職員による事案であった。前年まで本園のシステムは基幹的職員を中心にしたスキルバランスがあり、ここ数年はそのバランスで職務遂行してきた。今年度、基幹的職員変更を行い、それに伴う新配置にベテラン職員が対応出来なかったというのが一番の理由である。職員は常々、「謙虚である」ということの必要性和「キャリアを積むということは責任の重さと比例する」ということを学ぶ必要性を感じた。

【平成27年度業務改善事業と課題】

(1) 家庭的養育の推進、養育単位の小規模化に向けた基本計画の実行

やはり、小規模保育を行うにあたっての準備が足りていなかったのは否めない。今一度、問題の検討と概念整理を行う必要があるだろう。その為、小規模保育マニュアル策定については作成を中断している状態にある。来年度、内容が整理されることで新たなマニュアルを作成していきたい。

(2) 小規模保育実現に向けた養育態勢の検討

小規模保育に合わせ職員配置を厚くする為、人員確保を行った。当然、新職員も増えるため、年度初めは流動的な勤務態勢になる事が予想されるが、体制が落ち着けば縦割りの小規模保育を実施する予定。ハード面の充足は可能となったわけだが、保育内容については職員それぞれの課題となる。

(3) スーパービジョン、コンサルテーション体制について

今年度も月に1度のスーパービジョンを新職員と1年目のスタッフに対して行ってきたが、スーパービジョンが出来る職員がいないため、園長がそのままスーパービジョンを行った。課題としてスーパーバイザーの育成が必須となるため、子供ホーム協力の下、子供ホーム職員によるスーパービジョン講習を本園2名の職員に行っている。

コンサルテーションについては前年度同様に心理士が行った。中長期計画作成時期に(3ヶ月毎)各職員に対して養育内容のアドバイスを頂いている。28年度は心理士の就労日を増やすことが出来たため今年度よりスムーズなコンサルが可能となる。

(4) 地域子育て支援事業の継続と充実

・病児保育

前述した統計からみると本年度も 700 人以上の利用があった。前年度と比べるとかなりの減となるが東区に 2 カ所病児保育が出来、利用者が分散した為と思われる。

・パパママ教室

体験学習として当園の機能を十分、生かす事が出来る事業である。利用数が少ない事は残念であるが、次年度は行政とのコンタクトを取り利用数増に努めたい。

・ショートステイ、トワイライトステイ

空きベッド利用のため緊急時の対応が難しい現状がある。又、今年は熊本乳児院が感染症の流行のため本園のみに利用依頼が集中したが、本園も満床状態の為、利用出来ないという事態が起きた。現在でも利用者のニーズは高く週に 2～3 回は問い合わせの電話がある。

【平成 28 年度事業計画の骨子】

1. 小規模縦割りに伴う勤務編成見直し
2. 新人職員の教育の確保
3. プロジェクト
 - ・保育士会発足プロジェクト
 - ・グリーンアンドクリーンプロジェクト
 - ・マニュアルプロジェクト